

今回のテーマは、「ありがとうと言おう」です。前回は「ごめんなさいを伝えよう」でしたので、なにか道徳の授業のようになってきた感じの実践論初級編です。（笑）

が、ともに外してはならない人の道を教える言葉ですので、私たちの仕事の対象者が知的障がい・自閉症の方々であるがゆえに常に繰り返し確認をしていく必要性があると考えています。「ごめんなさい」も「ありがとう」も強者（例えば支援者）と弱者（例えば知的障がい・自閉症の方々）との関係において、どうしても忘れてしまいがちな態度であるからです。

食事前の排泄支援をお便所でしていて、振り返ったらそこに歩行に不自由なA子さんが立っていた、そんな時、「ありがとうね、オシッコだよと呼ぶ前にここまで来てくれたんだね。助かるよ」

オムツを交換していて、重度心身障がいのB男さんのわずかに浮くその腰の動きを感じた、そんな時、「ありがとうね、助けてくれたんだね。助かるよ」

歯磨き支援で、「順番なんだよ、ちょっと待っていてね」と言っていて、いつもは動きの激しい自閉症のC子さんがほんの少し待っていてくれた、そんな時、「ありがとうね、待たせて悪かったね」

もっと複雑な「ありがとう」もあります。

今日は担当の職員さんが、他の利用者の方と外出のD男さん、玄関で職員さんの帰りを今か今かと待っています、そんな時、「ありがとうね、羨ましかったんだよね、帰ってきたら帰りを上手に待っていたんだよって、伝えるね」

先ほどから、ちょっと小パニックのE子さん、情報を集めると、昨晚、約束の家庭への電話をスタッフが忘れてしまっていたらしい、そんな時、「ありがとうね、スタッフが昨日の夜、電話を忘れていたことを教えてくれたんだね、ずっと気がついてくれないかなって待っていたんだよね」

さらにもっと複雑な「ありがとう」も

あります。

大雪で、楽しみにしていた面会が急にキャンセルになってしまったF男さん、担当の職員さんの後を追いかけては、そばにいます、そんな時、「今日は、急に面会が無くなってしまって寂しいね。さっきから私のところ何回も来てくれてありがとう、私のこと頼りにしてくれて本当にありがとう」

新人職員さんの初めての夜勤、みんな静かに寝静まっています、そんな時、「初めての夜勤、大変だろうって、みんな気を使ってくれたんだよね、本当に助かりました。ありがとう」

私たちの周りには、気がつかうと思えば、たくさんの「ありがとう」があふれています。ただそれに気がつかないだけなのです。

＜見えない頑張りを見つけてほめることができる＞、私たちの仕事の本質はこんなところにもあるのですが、もともと頑張りは見えにくいものです。ましてやどんな努力もやって当然という環境に置かれていては、頑張りが増々見え難くなります。

頑張りとは、いつでもその人なりの頑張りであるはずですが、お便所まで一人で歩いてきたA子さんの頑張りとは、定型発達の方にとっては登山道を歩くほどの努力に相当するかもしれません。腰を浮かせてくれたB男さんの努力は、定型発達の方にとっては20kgの荷物を持ち上げるほどの大変さなのかもしれません。C子さんのほんの少しの待ち時間は、私たちにとっては5分間の正座に当たるのかもしれない。見えない努力を見つけるには、＜想像の翼＞が必要なのです。

私たちは、いつでも見えないところで助けられています。その関係は、定型発達の方々との間だけに生まれるのではなく、知的障がい。自閉症と言われる方々との間にも当然生まれています。それにどれだけ気がついていくことができるか、それが私たちの支援の質を決めていきます。